

たばこは毒物？それとも嗜好品？



長尾和宏（ながお・かずひろ） 東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。平成7年、尼崎市で「長尾クリニック」を開業。外来診療から在宅医療まで、人を診る、総合診療を目指す。医学博士。日本禁煙学会専門指導者。51歳。ブログ(<http://www.nagaoclinic.or.jp/doctorblog/nagao/>)が好評。

Dr.

和

の町医者日記

今秋から主力銘柄のたばこが1箱400円に値上げされます。さっそく診察室でアンケートを取ってみました。「これを機会に禁煙しよう」という人と「値上げしても絶対に止めないぞ」という人の真二つに分かれてしまいました。そこでたばことは一体何物か、改めて考えてみました。

よく「たばこは日本の文化だ」という人がいます。しかし、たばこは決して古来、日本にあったものではありません。実は源氏物語の時代には

ありませんでした。1400年の終わりにアメリカ大陸を発見したコロンブスは、たばこを梅毒を世界中に広めました。日本には鉄砲と一緒に種子島に伝来したものです。昔から、酒とたばこはよく一緒にされますが、全然別物です。酒は嗜好品であり、少量は薬になります。しかし、たばこは嗜好品ではなく少量でも毒物です。しか

「毒と依存」が、その正体

ニコチン 毒物・劇物取締法に「毒物」として指定されたアルカロイドの一種。シアン化物と同様に猛烈な神経毒である。中脳辺縁系のドーパミン神経の興奮を介した依存性形成のメカニズムは、他の依存性薬物（コカイン、ヘロイン、アンフェタミン）と似ているが、麻薬ではなく、「毒物」である。

で、大人の必要悪かな？」程度で、大人の必要悪かな？」程度の感覚でした。医学生でありながら、たばこについて本当に何も知らなかったのが、

用いられるカドミウム、毒物のヒ素、排ガスに含まれる危険物質である一酸化炭素などが含まれています。

一番厄介なのが依存性です。漫画家の高信太郎氏はこれを「ニコチンの呪い」と表現しました。町医者をしていると「ニコチンの呪い」としか言いえないようなすさまじい場面を日々経験します。

し、これはまた世間では十分に知られていないのが実情です。毒物であるかどうか、アメリカの裁判で争われ決着がついたのが、つい最近のことだからです。

かく言う私自身も恥ずかしながら大学生のある期間、何も知らずに1日40本のたばこを吸っていました。「あまり体に良くはないだろうけど、お酒と同じようなもの

す。当時、たばこに関する医学講義は皆無でした。そもそもたばことは何でしょうか？ たばこの煙には4千種類以上の化学物質および250種類以上の毒物や発がん性物質が含まれています。例えばたばこの煙にはアセトン、アンモニアおよびトルエンのようにペンキ除去剤、クリーナー、溶剤に含まれる刺激性物質、カーバッテリーに

ニコチンは脳のニコチンレセプターに結合して、神経末端からドーパミンという快楽物質を出します。この快楽という褒美が報酬系という回路を形成します。すなわち、毒性と依存性こそがたばこの正体です。そのニコチンの毒性は、本人のみならず周囲に及ぼすのでたばこ問題は難儀なのです。

ひょうり